



 Data	2026-6
監督: テイント・プラス	
究極版製作: トーマス・ネゴヴァン	
製作総指揮: ジャック・シルバーマ ン	
出演: マルコム・マクダウェル/ピ ーター・オトゥール/テレ サ・アン・サヴォイ/サー・ ジョン・スタイナー/ゲイ ド・マンナリ/ヘレン・ミレ ン/ジャンカルロ・パデッシ /ミレラ・ダンジェロ/ド ナード・ブラチード	

## 👁️👁️ みどころ

名作『クレオパトラ』(63年)ではシーザーとクレオパトラを軸としたローマVSエジプトの関係や、クレオパトラを巡る男たちの抗争と、初代ローマ皇帝の誕生の物語を堪能することができた。『十戒』(56年)や『ベンハー』(59年)等の歴史大作も同様だったが、ペントハウス社が自主制作し1980年に公開された本作は、セックスとアートを融合させたハードコアの壮大なポルノ映画!?

日本では「カリギュラ効果」をもたらしたそうだが、“倫理的ホロコースト”と酷評され、フィルムを警察に押収され、わいせつ罪にも問われた本作は、お蔵入りに?否!! 奇跡的に発見された90時間以上の素材が再編集され「究極版」として蘇ったからビックリ! そんな178分の歴史超大作(ポルノ超大作?)はこりゃ必見!

そう思ったが、アレレ、アレレ。巨額のカネをかけていることはわかるが、巨大スクリーンで観るハードコアポルノの出来はいかにもペントハウス社製作らしく、はっきり言ってかなり退屈!?

—\*

### ■ ■ 「カリギュラ」とは?それは第三代ローマ皇帝! ■ ■

エリザベス・テイラー (クレオパトラ) とリチャード・バートン (マーク・アントニー) が共演した『クレオパトラ』(63年)はハリウッドを代表する歴史大作。したがって、同作を観ればクレオパトラの生涯はもとより、エジプトVSローマの関係がよくわかる上、シーザーとクレオパトラとの(男女)関係や、シーザー亡き後(暗殺後)のクレオパトラをめぐるアントニーとの男同士の対決に勝利した、シーザーの養子たるアウグストゥスが権力を握り、初代ローマ皇帝に就任していく歴史にもなるほど、なるほどと納得できた。

ところが、それから数十年後の紀元 1 世紀前半、ローマ帝国は第二代皇帝・暴君ティベリウス（ピーター・オトゥール）の下で墮落しきり、初代皇帝の曾孫であるカリギュラ（マルコム・マクダウエル）は、祖父であるティベリウスの異常性癖に辟易しながらもその王座を虎視眈々と狙っていたらしい。なるほど、なるほど。そんな詳しいローマ帝国の歴史は、小説家・塩野七生の『ローマ人の物語』全 15 巻を読めばよくわかるはずだが、そこまで知っている人は少ないだろう。

上記のとおり、本作のタイトルとされている「カリギュラ」は第二代ローマ皇帝・ティベリウスを暗殺して第三代ローマ皇帝に就いた男。日本では 1980 年に公開された本作が大ヒットし、「カリギュラ効果」が生まれたことによって、第三代ローマ皇帝“カリギュラ”の名前も有名になっただろう。ちなみに、本作のチラシには「阿鼻叫喚、罵詈雑言、酒池肉林 45 年ぶりにスクリーンに蘇る、狂気の暴君」の文字が躍っているが、第三代皇帝・カリギュラの狂気ぶりはそんなにすごいのか？

## ■本作はオリジナル版でも完全版でもない、究極版！■

本作は『カリギュラ 究極版』とされているが、オリジナル版でも完全版でもない、究極版って一体ナニ？本作の公式サイトによると、それについて、次のとおり書かれている。

1976 年、ペントハウス誌の創設者ボブ・グッチョーネは、映画史上最高額の製作費を投じて「自主製作映画」『カリギュラ』を企画した。セックスとアートを融合させ、史上最も退廃的とされる皇帝カリギュラを描く歴史大作として、脚本にゴア・ヴィダル、監督にティント・ブラスを起用。さらに、『時計じかけのオレンジ』のマルコム・マクダウエル、後に『クイーン』でアカデミー主演女優賞を受賞することになるヘレン・ミレン、『アラビアのロレンス』のピーター・オトゥールら英国の大物俳優が参加し、公開前から大きな期待を集めていた。しかし、製作中に様々なトラブルに見舞われることに。完成時には製作費は 2 倍に膨れ上がり、脚本家やスタッフらが訴訟を起こす事態に発展。撮影完了後には、監督は解雇され、編集と音楽の担当はクレジットを拒否した。トラブルを経て、1980 年ようやく公開された『カリギュラ』は、観客だけでなくキャストにも衝撃を与える。グッチョーネが勝手にポルノシーンを付け加えていたり、勝手に脚本を書き換えたものが公開されてしまったからだ。批評家からは“価値のないゴミ”や“倫理的ホロコースト”と酷評され、フィルムは警察に押収され、わいせつ罪にも問われた。しかし公開時に異例の興行収入を記録し、今でも世界的に高い人気を誇っている。そしてあれから 45 年。破棄されたと思われていたフィルムが奇跡的に発見され、90 時間以上の素材を再編集した“本来の『カリギュラ』”がついに蘇った。阿鼻叫喚！罵詈雑言！映画史を震撼させた大暴君が、当時とは異なるまったく新しい姿で、令和に再臨する！

このたび、本作の日本公開日が 2026 年 1 月 23 日（金）に決定し、タイトルも正式に

『カリギュラ 究極版』となった！

また、パンフレットによると、「二度と観られぬ、圧倒的な『究極版』を、その目で確かめろ。」と書かれているうえ、本作の“究極性”は次の3点とされている。すなわち、

究極1「1980年公開のオリジナル版とは全て異なるカットと未使用映像を4Kデジタルリマスターで構成したほぼ新作と言って過言ではない、究極の新編集版」

究極2「製作費は『スター・ウォーズ』の約2倍。鮮やかで目もくらむ様な豪華絢爛なセットや衣装。」

究極3「劇場のみ『完全無修正版』で上映。」

『カリギュラ 究極版』の上映時間は178分。こりゃ楽しみだ。スクリーン上には一体どんな、阿鼻叫喚、罵詈雑言、酒池肉林の姿が・・・？

## ■□■ハードコアのポルノ (R18+) が大スクリーンで延々と！■□■

私の中・高時代の一人での3本立55円の映画館通いは、もっぱら日活の青春映画と世界の名作で、ポルノ映画は1作もなかった。しかし、1970年代の日活ロマンポルノ全盛時代にはそれなりの有名作品は観たし、80～90年代のビデオテープ全盛時代は、いわゆるエロビデオや裏ビデオも鑑賞していた。それはある意味当然だが、はっきり言ってハードコアのポルノ映画はそれほど面白いものではなかった。

しかし、予告編で観た本作のハードコアぶり、ポルノ映画ぶりは突出していたから、これは興味津々！『カリギュラ 究極版』と題された本作最大の見どころは、チラシにある「阿鼻叫喚、罵詈雑言、酒池肉林」ぶりだが、“政治的メッセージ(?)”は、「絶対的な権力は絶対的に腐敗する。」という点にある。そうだとすると、きっと本作は物語としても前述した『クレオパトラ』に匹敵する傑作のはずだ。本作冒頭、ティベリウス皇帝が支配するローマの宮殿の中で見せるティベリウスの阿鼻叫喚、罵詈雑言、酒池肉林ぶりが示されるので、それに注目！当然カリギュラはそれに異を唱えることなく従順に従っていたが、その内心にはメラメラと反抗心が燃えていることは明らかだ。そんなカリギュラの心の拠りどころは姉のドルシラ(テレサ・アン・サボイ)だ。本作導入部では、そんな2人(姉弟)のハードコアなポルノぶりが次々と映し出せるので、それに注目！姉と弟との(近親)結婚はローマでは禁止だが、エジプトでは許されているため、カリギュラはドルシラとの結婚を望んだが、それに対するドルシラの対応は？

暴君ティベリウス皇帝を演じるピーター・オトゥールの演技力がさすがなら、ドルシラ役を演じるテレサ・アン・サボイのヌード姿の美しさもさすがだ。しかし、こんなハードコアのポルノぶりが178分も延々と続くの？ストーリーの展開の楽しみは一体どこにあるの？そんな不安が次々と広がっていくことに・・・。

## ■□■暴君ぶりのあれこれに、いい加減うんざり！■□■

いわゆる「エロビデオ」、「裏ビデオ」の範疇には「○○モノ」、「△△モノ」、「××モノ」等といういろいろあるが、本作中盤は、①ローマ帝国の宮殿内におけるカリギュラが発明した

残忍な殺人マシーンによる殺戮シーンあれこれ、②親衛隊員の一人であるプロキュルス（ドナート・プラチード）とその婚約者リビア（ミレツァ・ダンジェロ）に目をつけたカリギユラによる、処女妻への蛮行と花婿への男性的生贄、さらには、③カリギユラの美しい愛馬インチャトゥスの元老院議員への任命、④ドルシラの反対を無視して結婚した官能的な女・カエソニア（ヘレン・ミレン）の出産の一般公開、等のシークエンスが延々と続いていくが、はっきり言って私にはもういい加減うんざり・・・。

## ■□■ドルシラを熱病で失うと、国営の売春船建設へ！■□■

カリギユラがカエソニアを妻として選ぶことにドルシラが反対したのは、カエソニアの浮気症、淫乱性のためだったが、ドルシラとカエソニアの間に女同士の不思議な愛が生まれたのは意外。さらに、そんな女同士の性愛の中にカリギユラが加わり、3人がベッドでもつれ合う展開を覗き穴から見ていた宮廷の美女・アグリッピナ（ロリー・ワグナー）とメッサリーナ（アネカ・ディ・ロレンツォ）も壁のこちら側の豪華なベッドの上でもつれ合う姿も登場するが、これらは、いかにも「ペントハウス」社が好きそうな設定と映像だ。

また、カリギユラが患った熱病がドルシラの献身的な看病のおかげで治癒したのも束の間、今度はドルシラが熱病に苦しみ死んでしまったから、さあ大変。更なる狂気に至ったカリギユラは「この世でいちばん淫蕩な女たち。それは元老院議員の妻たちだ！」と宣言し、宮殿の中に巨大な方舟（はこぶね）のような売春船を建造させた上、ローマ市民たちを相手に元老院の婦人たちに売春を強要したからビックリ！これぞまさに、「ペントハウス」社が仕掛けた、史上最悪の映画事業（？）だ。ちなみに、パンフレットにある「物語」では、それについて次のとおり書かれている。すなわち、

黄金のその方舟の船上、船内は文字どおり酒池肉林と化した。白い肉がうねり、ぬめぬめと男の肉とまじり合い、この世のものとも思えない光景が展開していく。1人の男と2人の女。1人の女と複数の男。女と女。……カリギユラはこの売春船の売りあげが国家の重要な財源だと見栄をきった。

## ■□■カリギユラの最後は？後継者は？ローマ帝国の行方は？■□■

私が吉田満の小説『戦艦大和ノ最後』（52年）を読んだのは大学1回生の時だが、「第三代ローマ皇帝カリギユラの最後」は、親衛隊員カエレア（パオロ・ボナッセリ）と医師のカリクレス（レオポルド・トリエステ）と彼らが雇った傭兵による某劇場での暗殺によるものだ。シーザーの暗殺（B.C.44年）は超有名だが、カリギユラについてもこんな暗殺物語があったことを私は初めて知ったが、カリギユラ亡き後のローマ皇帝になったのは知恵遅れと見られていた50歳の叔父クラウディウス（ジャンカルロ・パデッシ）だそう。また、前述した2人の美女のうちの1人メッサリーナが、後にカリギユラの後継者クラウディウスと結婚し、淫蕩なあまり夫殺害を計画して処刑されたそう。

もともと、そんな歴史上の事実に私はほとんど興味がないから、本作の後半からはうんざりしながらスクリーンを鑑賞し続けるだけに・・・。 2026（令和8）年2月6日記